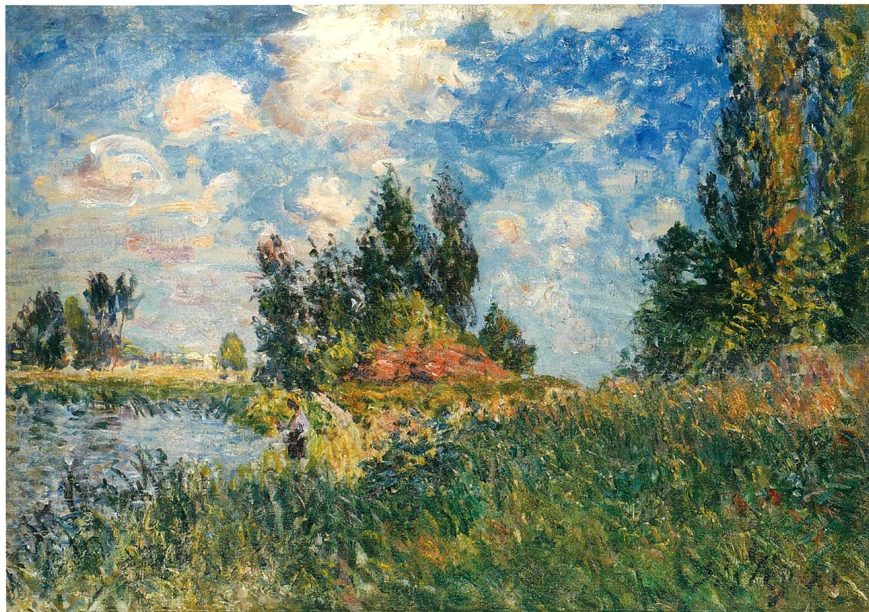


グリーンルーフ

No.79
2015.12.08



アルフレッド・シスレー《サン・マメスのロワン河畔の風景》1881年

contents

- 開館30周年記念
大所蔵品展 ―市美のお宝、勢ぞろい。
- さらなる30年に向かって
- 小企画展
生誕100年 帖佐美行展
- 美術館の舞台裏 ミュージアム I P M への取り組み
- Topic：開館30周年特設ページ誕生！
- 表紙の作品解説

 鹿児島市立美術館

〒892-0853 鹿児島市城山町4-36
TEL(099)224-3400 FAX(099)224-3409
<http://www.city.kagoshima.lg.jp/artmuseum/>

表紙の作品解説

アルフレッド・シスレー
《サン・マメスのロワン河畔の風景》
1881年、油彩・キャンバス、34.2×48.5cm

舞台はパリの南西、セヌ川とロワン川の合流地点に位置するサン・マメス。明るい日差しに包まれ、釣り人が糸を垂れている。広々とした青空に悠々と浮かぶ白い雲や生命力溢れる木々の緑が釣り人の長閑な夏の一日を演出する、明るく爽やかな作品である。

シスレー(1839～1899)は、モネやルノワール、ピサロらと活動を共にした、印象派を代表する画家である。「目に映ったものを描く」という印象派の理念に最も忠実だった画家であり、実際の風景を大切にしながら光や空気の調子を巧みに捉え、堅実な構図と穏やかな色彩による詩情溢れる風景画を描き続けた。穏健な制作スタイルゆえに、印象派の他の画家たちと比べると目立つ存在とは言い難い。しかし、その穏やかな作品の中に漂う豊かな情緒は、印象派に続くモダニズムの画家達がともすれば忘れがちであった、絵画本来の魅力とも言えるだろう。

本作は、当館の新装開館にあわせてセザンヌの《北フランスの風景》などと共に収蔵した、最初期の西洋美術コレクションの一つである。本年、時を同じくして開館30周年を迎えた練馬区立美術館で開催された「アルフレッド・シスレー展」(2015年9月20日～11月15日)にも、代表的作品として出品された。同展の調査によると、国内で所蔵されているシスレーの作品は40点ほどである。本作は、日本で観られるシスレーの貴重な一作でもあるのだ。